

デジタル情報財流通におけるコンテンツ・メタデータ・コンテキスト・経済主体情報 4層構造の提案とコンテキスト市場の設計

次世代メディア研究会 生貝直人*・濱野智史**・曾根原登***・坪田知己**

*慶應義塾大学 総合政策学部

**慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

***国立情報学研究所

情報過多の社会においては、コンテンツそのものよりもコンテンツの価値を示し、消費者とつなぐ役割を果たす「コンテキスト」の価値が相対的に高まる。情報流通が情報の価値に基き効率的に行われるためにはこのコンテキスト情報のガバナンスが決定的に重要となる。

しかし、あらゆる種類の情報がIP上で縮退した現在のインターネットアーキテクチャにおいては、コンテキストをコンテンツと峻別して扱うことは困難である。

この問題を解決するため、次世代情報流通の基盤としてデジタル情報財流通を 層：コンテンツ層、層：メタデータ層、層：コンテキスト層、層：経済主体情報層という4層に分割し、それぞれを独立にガバナンスすることを可能とした4層構造インターネットアーキテクチャを提案し、各層の定義とガバナンス方法の考察を行う。

最後に、次世代インターネットアーキテクチャとしての4層構造を導入することによって開かれる情報流通形態の可能性と、新たなビジネスモデルとしてのコンテキスト・プラットフォームの機能のあり方について論じる。

Four-layer Internet architecture for digital information distribution

Naoto Ikegai+, Satoshi Hamano++, Noboru Sonehara+++, Tomomi Tsubota++

+Keio University, Faculty of Policy Management

++Keio University, Graduate School of Media and Governance

+++National Institute of Infomatics

In the information-oversupply society, the value of the "context" -a kind of information which determine other information's value, and connect consumer and information- will become higher than "contents" itself.

In order to deal with the "context" on the Internet efficiently, we propose the following four-layer Internet architecture and design "context market".

(1) Contents Layer (2) Metadata Layer (3) Context Layer (4) Privacy Layer